柳澤利佳 ソプラノリサイタル

ピアノ：星 和代

1部

私は泣き呻き …… ヴィヴァルディ

貴女の輝かしい姿 …… ヴィヴァルディ

私は妻として、嘲られた …… ヴィヴァルディ

どうぞ、愛しい人よ …… ベッリーニ

喜ばせてあげて …… ベッリーニ

オペラ「セミラーミデ」より 麗しい光が … ロッシーニ

2部　オペラ「ラ・トラヴィアータ(椿姫)」ハイライト　～ヴェルディ生誕200年記念によせて～

共演：井出 司(アルフレード)　栗原 剛(ジェルモン)　時田 早弥香(アンニーナ)

(第一幕)　前奏曲　思い出の日から　ああ、そは彼の人か～花から花へ

(第二幕)　燃える心を　ヴァレリー嬢ですね？～いつか愛の喜びが

愛してね、アルフレード　プロヴァンスの海と陸

～休憩～

(第三幕)　間奏曲　アンニーナ？　さようなら、過ぎさった日よ

パリを離れて　不思議だわ…

※構成演出・字幕：堀岡 佐知子

浜松出身の
演奏家シリーズXX

2013 四季のコンサート 30周年記念

2013年7月20日(土)18:15開場 18:45開演

会場：浜松市教育文化会館

主催：浜松音楽友の会

プロフィール

柳澤 利佳 (ソプラノ)

浜松市立与進中学校、浜松学芸高校芸術科卒。東京芸術大学音楽学部声楽科を経て同大学大学院音楽研究科オペラ科修了。第44期二期会オペラ研修所マスタークラスを修了し優秀賞受賞。イタリア、フランスにて学ぶ。各地でマスタークラスを受講、記念演奏会に出演。アルカモ国際オペラコンクールにて日本代表に選出される。イタリア声楽コンコルソシエナ、東京国際声楽コンクールなど多数のコンクールにて入賞、入選。二期会「蝶々夫人」ケイト役でオペラデビュー。「フィガロの結婚」「ドン・ジョバンニ」「チィートの悲恋」「マノン」「椿姫」「ラ・ボエーム」「こうもり」などの公演に出演。出身地においては、浜松市民オペラ、浜松楽器博物館、静岡国際オペラコンクールイベント、第四回静岡県民オペラつう役アンダーなどに出演した他、18年浜松市新進演奏家交流事業、19年静岡県文化推進事業にて講師を務める。二期会会員、浜松学芸高校芸術科非常勤講師。

星 和代 (ピアノ)

昭和音楽大学ピアノ科卒業。同専攻科修了。卒業時に優等賞受賞。下八川圭祐基金を受け渡伊。イタリア国立A.ボーイト音楽大学院オペラ伴奏科を最高点と賛辞を受け、首席で修了。第六回静岡国際オペラコンクール公式ピアニスト。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部選科ピアノ講師。新国立劇場オペラ研修所ピアニスト。

井出 司 (テノール)

昭和音楽大学卒業。同大学大学院を首席で修了。イタリア声楽コンクール入選、ペーザロ市国際音楽コンクール第三位を受賞など様々なコンクールに上位入賞。東京交響楽団などオーケストラとの共演を果たし好評を得る。藤原歌劇団オペラ「ランメルモールのルチア」アルトゥーロ役で藤原歌劇団デビュー。佐久演奏家協会会員、藤原歌劇団正団員。

栗原 剛 (バリトン)

国立音楽大学大学院オペラ科修了。二期会オペラ研修所修了(優秀賞)。東京二期会公演「トゥーランドット」「ジャンニ・スキッキ」「魔笛」「蝶々夫人」等に出演。また、日本オペラ団体連盟、モーツァルト劇場、日生劇場、佐渡裕プロデュースオペラ等、多数のオペラ公演に出演している。二期会会員。

時田 早弥香 (メゾソプラノ)

静岡県富士市出身。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部修了。静岡県音楽コンクール声楽部門高校の部一位。クラシックコンクール声楽部門高校の部第四位。2012年3月藤原歌劇団「フィガロの結婚」バルバリーナ役をオーディションにてオペラデビュー。藤原歌劇団準団員。

柳澤利佳
ソプラノリサイタル

RIKA YANAGISAWA
SOPRANO RECITAL

曲目解説

真嶋 雄大

●アントニオ・ヴィヴァルディ(1678~1714)／**私は泣き呻き　貴女の輝かしい姿　私は妻として、嘲られた**

ヴィヴァルディはヴェネツィアに生まれた当代一の人気作曲家であり、その作品をJ.S.バッハが熱心に研究したことでも知られている。ヴァイオリン協奏曲集「四季」に代表されるように、膨大な協奏曲や器楽曲が知られているが、オペラやオラトリオ、カンタータなど夥しい数の声楽作品も遺している。

〈**私は泣き呻き**〉は、「アルトのためのカンタータ」の中の曲。J.S.バッハはこのモチーフを用いて「カンタータ《泣き、嘆き、憂い、慄き》BWV12」を創作したようである。さらにこのモチーフを「ロ短調ミサBWV232」のCrucifixusにも転用している。〈**貴女の輝かしい姿**〉はオラトリオ「蛮族の王ホロフェルネスを討伐した勝利のユディタ」のアーブラのアリア。ピエタ慈善院付属音楽院のために1716年に書かれたもので、ヴィヴァルディのオラトリオとしては唯一現存する作品。〈**私は妻として、嘲られた**〉は、オペラ「バヤゼット」第2幕でイレーネが歌う有名なアリアだが、ヴィヴァルディの作ではない。当時としては一般的だったパスティーシュ(寄せ集め)で作られており、このアリアもジェミニアーノ・ジャコメッリ(1692~1740)のオペラ「メローペ」からの流用である。

●ヴィンチェンツォ・ベッリーニ(1801~1835)／**どうぞ、愛しい人よ　喜ばせてあげて**

ベッリーニは、シチリア島に生まれたオペラ作曲家。オルガニストで作曲家だった父に手ほどきを受けてナポリ王立音楽院で学び、1825年には最初のオペラ「アデルソンとサルヴィーニ」を作曲、注目を集めた。続いて1826年、ナポリのサン・カルロ劇場からの委嘱作「ビアンカとジェルナンド」は大成功を収め、世界的な地位を確立した。

34歳という短い生涯ではあったが、「ノルマ」、「清教徒」、「夢遊病の娘」、「海賊」、そして「カプレーティとモンテッキ」など改作を含め11のオペラを遺した。これらはベルカント・オペラの傑作としてベッリーニの名を不動のものにしている。その他ベッリーニは宗教曲や30曲ほどの歌曲、わずかの器楽曲を書いており、歌曲についてはそのほとんどが1825年以降に作曲された。

〈**どうぞ、愛しい人よ**〉と〈**喜ばせてあげて**〉は、歌曲集「6つのアリエッタ」の5曲目と6曲目、いずれもベッリーニ独特の美しい旋律に溢れている。

●ジョアッキーノ・ロッシーニ(1792~1868)／**オペラ「セミラーミデ」より 麗しい光が**

ロッシーニは「セビリアの理髪師」、「ウィリアム・テル」、「アルジェのイタリア女」、「チェネレントラ」、「アルミーダ」、そして「泥棒かささぎ」などで知られるオペラ作曲家。その圧倒的な名声はヨーロッパ中に知れ渡り、フランス国王からは「第一作曲家」の称号と終身年金を授与された。その後37歳で作曲家を引退、余生をもっぱら美食の探求と高級レストランの経営に費やした。

《セミラーミデ》はヴォルテールの悲劇「セミラミス」をもとに、1823年に作曲したオペラで、イタリア時代最後の作品。〈**麗しい光が**〉は第1幕第2場、バビロンの女王セミラーミデが心を寄せるアッシリアの士官アルサーチェの帰還を待って歌うアリア。

●ジュゼッペ・ヴェルディ(1813~1901)／**オペラ「ラ・トラヴィアータ(椿姫)」ハイライト**

今年生誕200年を迎えたヴェルディは、19世紀を代表するイタリアの作曲家である。「ナブッコ」、「マクベス」、「リゴレット」、「イル・トロヴァトーレ」、「椿姫」、「運命の力」、「ドン・カルロ」、「アイーダ」、そして「オテロ」などのオペラは世界各地で現在も数多く上演されているが、それまでのベルカントから方向を転じ、劇重視の手法を採ってイタリア・オペラに変革をもたらした功績は大きい。

特に1842年の「ナブッコ」から81年の「アイーダ」までの30年間をヴェルディの時代とも呼ぶが、3幕からなる「椿姫」もその間の1853年に書かれた。原題は「ラ・トラヴィアータ(堕落した女)」で、デュマの原作による。

〈第一幕〉

第3幕冒頭にも現れる抒情的な旋律を含む〈**前奏曲**〉からオペラは幕を開ける。ヴィオレッタの屋敷ではパーティの最中、初めて訪れたアルフレードとヴィオレッタは"幸福なある日"と二重唱〈**思い出の日から**〉を歌う。その時ヴィオレッタを軽いめまいが襲う。パーティは中止となるが、回復したヴィオレッタは傍にアルフレードがいるのに驚く。実はアルフレードは1年前からヴィオレッタに恋しており、ヴィオレッタもその気持ちに応える。そして全オペラの中でももっとも有名なアリアのひとつ、〈**ああ、そは彼の人か～花から花へ**〉で複雑な想いを吐露する。

〈第二幕〉

ともに生活を始めた2人。アルフレードは〈**燃える心を**〉でその幸福を語る。その後アルフレードは、ヴィオレッタが家財を売って生計を立てていたことを知り、取り戻すべくパリに向かう。そこにアルフレードの父ジェルモンが訪ねてきて、息子と別れてくれと懇願する〈**ヴァレリー嬢ですね?～いつか愛の喜びが**〉。その願いを聞き入れるヴィオレッタ。しばらくして戻ったアルフレードに、ヴィオレッタは〈**愛してね、アルフレード**〉と歌う。ヴィオレッタの残した手紙を呼んで、アルフレードは裏切られたと勘違いして激怒、再び現れたジェルモンは、故郷プロヴァンスに帰ろうと〈**プロヴァンスの海と陸**〉を歌って息子を慰める。

〈第三幕〉

〈**間奏曲**〉で幕が上がる。父からの告白で真実を知らされたアルフレードは、ヴィオレッタのもとに急ぐ、けれども肺結核によってヴィオレッタの生命は幾ばくもない。彼女は召使いに〈**アンニーナ?**〉と呼びかけ、〈**さようなら、過ぎさった日よ**〉と歌う。その時アルフレードが戻り、2人は再会を喜びながら〈**パリを離れて**〉楽しく暮らそうと語り合う。ヴィオレッタは"新しい力が湧いてくるよう"と、〈**不思議だわ…**〉を歌うが、ついにこと切れ、悲しみの中で幕が下りる。

まじま ゆうだい(音楽評論家)